

# 現代会計の変容をどう見るか

## －その現代的特性と問題性－

中央大学大学院ゲスト講義 2010年11月27日

石川純治（駒澤大学）

国際会計基準の世界浸透に象徴される現代会計の変容をトータルに理解する、これを講義のテーマにしたい。変容の今日的なあり方はいかなるものか、その変容は何処からくるか、会計の基本的な考え方は大きく変わったのか。大きく変容する現代の会計、とりわけその変容の形と方向はどのように捉えられるか。講義および討論をとおして、変貌する企業会計の現代的特性と問題性を明らかにしてみたい。

1 現代会計の変容をどう見るか：配布資料①（『週刊経営財務』インタビュー、2008年10月9日）

- 1) 計算基礎の相違
- 2) 変容の構図
- 3) 変容のモーメント
- 4) 時価会計の現代性
- 5) 補遺：注目されるMOU
- 6) 学問の力

2 「金融・開示・取引法」優位の現代会計という見方：配布資料②（『週刊経営財務』2010年7月19日号、3月15日号書評）

経済・会計・法の総体的視点：総体として「X優位（ $X > Y$ ）」という現代性

<u>X</u>	<u>Y</u>	
金融	>	実物：経済の観点
開示	>	計算：会計の観点
取引法	>	組織法：法の観点

XとYに根ざした会計のあり方の基本的相違

投資判断会計とエクイティ（信認義務）会計をどう融合するか→XとYの融合

3 後入先出法はなぜ廃止なのか：配布資料③（『企業会計』2009年1月号）

IASBが主導する会計基準の国際統合化→そこに横たわる基本思考を個別ケースに見る  
2つの方法－売上原価（フロー）と在庫（ストック）→いずれを直近にするか  
ストックの実態開示（B/S）とフローの実態計算（P/L）→いずれを重視するか  
ストック重視思考→従来の枠外（価値評価）はむろん、枠内（会計配分）にも